

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 農業高校GAP認証取得事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 学校支援課 産業教育係 電話番号：058-272-1111 (内 3881)

E-mail：cl7782@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,700千円 (前年度予算額：3,295千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,295	3,295	0	0	0	0	0	0	0
要求額	2,700	2,700	0	0	0	0	0	0	0
決定額	2,700	2,700	0	0	0	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

国際水準GAPの実施及び認証取得の推進は、農業人材の育成や農業競争力の強化を図る観点から極めて重要である。このため、国際水準GAPの実施及び認証取得の拡大が加速的に進展するよう、農業の担い手を育成する県内農業高校のGAP認証の取得拡大の取組を支援する。

(2) 事業内容

① GAP認証取得審査および継続・維持審査

県内農業高校に対する第三者機関GAP認証取得および継続・維持認証に係る審査費用及び審査員経費の支援

② GAP認証取得計画

大垣養老 JGAP(キュウリ)、郡上 ASIAGAP(ジネンジョ、シイタケ)
加茂農林 JGAP(コメ)、飛騨高山 JGAP(コメ)

③ GAP継続・維持審査認証計画

岐阜農林 GLOBALG. A. P. (コメ、トマト)、JGAP(カキ)
大垣養老 JGAP(コメ)、郡上 ASIAGAP(コメ)、恵那農業 JGAP(ナシ)
飛騨高山 JGAP(リンゴ)

(3) 県負担・補助率の考え方

国負担 10/10 (農林水産省 農業生産工程管理推進事業交付金)

(4) 類似事業の有無

有 国際水準GAP認証取得支援事業費補助金 (県農政部農産物流通課)

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
役務費	2,700	審査手数料
合計	2,700	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第3次岐阜県教育ビジョン

基本方針1 んふへの愛着をもち、世界に視野を広げ活躍する人材の育成

目標4 優れた才能や個性を伸ばす教育の推進

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
国際水準 GAP の認証取得を県立農業高校 6 校全てにおいて実現するとともに、GAP を推進できる人材を育成する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
				(前々年度末時点)		
GAP 認証取得数 (取組数を含む)	0 件 (H29)	6 件 (H30)	6 件 (R1)	9 件 (R2)	10 件 (R3)	90%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
県内 6 農業関係高等学校で GAP 認証取得に取り組むことで、学校農場で適正な農業規範に則った生産が行われるよう環境整備を推進するとともに、その手法を学ぶ過程を通して、GAP についての知識・技術を持った農業の担い手育成を支援した。

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
県内 6 農業関係高等学校で GAP の視点に立った GAP 教育に取り組み、GLOBALG. A. P を 1 品目、ASIA GAP を 2 品目、JGAP を 1 品目認証取得した。また、今後 GLOBALG. A. P、ASIA GAP、JGAP を各 1 品目認証取得予定である。結果として、これまでの事業成果と合わせて 6 農業関係高等学校のうち 5 校で GAP 認証を取得できている。また、GAP 取得を学んだ生徒が地域農家の GAP 認証取得を支援するなど担い手育成の効果が見られている。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い</p>	
（評価） ○	<p>国際水準GAPの実施及び認証取得の推進は、国産農産物の東京オリ・パラ大会への供給のみならず、輸出拡大や農業人材の育成など、我が国の農業競争力の強化を図る観点から極めて重要であり、未来投資戦略 2017 においても、「国産農林水産物の輸出増や国内での販路拡大に向けて、2020 東京オリ・パラ大会を契機として、生産現場における国際水準のGAPの実施及び認証拡大」を推進することとされている。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
（評価） ○	<p>各校がGAP認証取得に取り組むことで学校農場における生産活動が適正な農業規範に則って行われるよう環境整備が進んだ。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある</p>	
（評価） ○	<p>GAP認証取得に取り組んだ学校が他校や地域農家等を指導したり、生徒間で学習した内容を共有、地域へ発信するなど、各校がそれぞれの品目やGAPの種類での実践を行うことで、効果的なGAP認証取得の推進と普及につながっている。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GAP認証取得に必要な施設設備の整備費用の確保 ・GAP認証の維持審査、更新審査費用の確保（R3は支援対象予定） ・新たな区分、品目とならないGAP認証に必要な審査費用の確保

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>学習指導要領においてGAPの実践が明記され、これからの学校農場においても取り組む必要がある。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>国際水準 GAP 認証取得支援事業費補助金 【農産物流通課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	<p>GAPが実践できる農業の担い手の育成を図る。</p>